

事務事業評価表(既存事業)

コード 12-4-3	事務事業名 スクールピア派遣事業	所管部課 学校教育部教育相談課
---------------	---------------------	--------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 市立小学校全校に、週1回スクールピアを派遣する。児童の話し相手・遊び相手・個別相談及び児童の授業参加への支援等を、学校訪問教育相談員との連携のもとに行う。	総合計画上の位置づけ (政策)創造性の育つまちづくり (施策)学校教育の充実(創2-3) (主要施策)学校教育相談機能の充実
	実施内容、実施方法 スクールピアには派遣前と毎月、研修を行い、質的な充実を図っている。小学校からの希望をとり、週1回で1回6時間(休憩及び休息時間60分を含む)派遣。スクールピアの活用については、学校管理職および教育相談担当教諭が学校訪問教育相談員と協議していく。週1回、当該学校での活動について、学校訪問教育相談員と課内での打ち合わせを行う。全小学校との定期連絡会を年2回設け、事業の充実を図っている。	根拠法令等 スクールピア派遣事業の実施要領
	事業開始時期 平成 14 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()

評価指標の設定	活動指標名 相談開催日数	活動指標の考え方(定義) スクールピアを小学校19校へ派遣した延べ日数(週1回派遣)
	成果指標名 児童との関わりの件数(個別と集団)	成果指標の考え方(定義) スクールピアが児童と関わった延べ件数(集団数+個別数)

		単位	14年度	15年度	16年度	17年度
事務事業データ	事業費(A)		8,396	8,404	7,553	8,346
	国庫支出金		8,396	8,404	7,553	
	都支出金	千円				
	地方債					
	その他					
	一般財源					8,346
	所要人員(B)	人	0.40	0.40	0.20	0.20
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	3,298	3,309	1,666	1,666
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	11,694	11,713	9,219	10,012
	単位当たりコスト (E)=(D)/(相談開催日数)	千円	20.30	16.83	13.88	
歳入	千円					
活動指標	目標値	日			636	680
	実績値	日	576	696	664	
活動指標	目標値					
	実績値					
成果指標	目標値	件			5,052	5,540
	実績値	件	4,714	5,389	5,691	
成果指標	目標値					
	実績値					

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	
	国・都・他市・民間等 における類似事業	
	運営上の制約条件・ 外部要因等	

コード 12-4-3	事務事業名 スクールピア派遣事業	所管部課 学校教育部教育相談課
---------------	---------------------	--------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	スクールピアが市民に周知されるようになり、活動への期待も高まっている。スクールピアの毎回の活動報告書では、活動時間内に多くの児童と関わり、支援していることが報告されている。教室外での児童の様子を担当が把握するのに役立っている。訪問教育相談員と情報を交換することにより相談が進められている。しかし、困難事例が増え、スクールピア単独での対応が難しくなっている。
	必要性 <input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	人材の安定確保と事業の充実を求められている。そのため、スクールカウンセラーの配置が要望されている。現在、スクールピア派遣と教育相談事業の学校訪問教育相談との両事業でスクールカウンセラーを補完している。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input type="checkbox"/> 問題なし <input checked="" type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	学校行事などで児童の相談ができない日は派遣しないなど、派遣日数を調整して効率的に実施している。学校内での活動を効率的に行うためには、学校の教育相談体制の充実に向けて、訪問教育相談員による支援体制の充実を図ることが必要である。また、困難事例の増加により、スクールピアの指導に多くの時間を割くようになってきている。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	全市立小学校に配置されている。特定の個人への介助員の役割をするものではないことを徹底することで、より多くの児童と関われる機会を作っている。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input checked="" type="checkbox"/> 廃止・休止	スクールピア派遣により、子どもたちが心理専門職を身近な相談相手と認識するようになり、教職員の教育相談の利用も徐々に進むなど、一定の効果が見られた。学校や市民からの期待も大きい。しかし、研修や活動への指導にかかる時間も多し、また、保護者や教員からの相談を訪問教育相談員が受け児童からの相談をスクールピアが受けるという役割分担をしているため、両方で密な情報交換に多くの時間をかけていることや、困難事例が増えてスクールピア単独での対応が難しくなっていること等から、より専門性の高い訪問教育相談員に事業統合することにより、充実させていくことが望ましい。

17年度における改善点	学校によりスクールピアの活用方法は様々である。目的にあった活動が行えるよう、連絡会等で学校担当者とも意思疎通を図っていく。学校のスクールピア活用について、介助員的な役割を期待したり、保護者への面接等訪問教育相談員と同等の専門性を期待したり、という混乱が生じているため、学校への周知を行って改善していく必要がある。次年度以降、専門性を高めるため、訪問教育相談員の派遣を行っている教育相談事業と合わせて見直しが必要である。
-------------	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など

必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など

効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など

公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など

総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。

拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。

継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。

改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。

抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。

廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。